神奈川県立川和高等学校

硬式野球部パンフレット

【本校野球部への入部をご検討の中学生・保護者の方へ】
本校野球部への入部を希望する方は必ず本パンフレットを最後までご一読ください。また、必ず一度以上は見学や練習体験会にお越しください。高校野球は選び直しが効きませんゆえ、マッチングがお互いにとって重要だと考えます。その齟齬が可能な限り少ない選択をして頂くための「パンフレット」「見学」「体験会」です。後悔のない高校野球人生と成長のため(入学・入部後のトラブル防止の観点も含む)には「理念共感」と「自己決定＝覚悟と責任」が必須だと考えておりますので、ご理解のほどお願い致します。※個別にも対応可能ですが、クラブチームの指導者の方、中学校の顧問の先生を通してご連絡頂きますとスムーズかと存じます。

●指導理念

「どうせ無理」をなくし、自分やチームの可能性を信じ、希望を持って挑戦し続ける人財であれ

人間は大人になるにつれ物事を打算的に考え、大志を抱けなくなってしまいがちだと思います。

野球をする多くの子どもたちは「甲子園に行きたい」「通算ホームラン〇〇本打ちたい」「150km/h 投げたい」と思っている(た)と思います。

例えば「甲子園に行きたい」。けれど、いつしか今の自分と周囲とを比較して「無理だ」と考え、「自信がなくなっていく」。周りも「どうせ無理だ」という空気を漂わせてくる。そうやって、子どもの頃に抱けていた大志が思い描けなくなっていくのだと思います。

高校野球を通じて、本当に自分が果たしたいことに正直に挑戦すること

この挑戦こそ、世の中を逞しく生き抜いていく力・資質や新たなものを生み出すパイオニア精神を育む教育だと信じています。人間の可能性を信じ、希望を持って生きていく人こそ、本校の教育理念の 1 つである「次世代を担うリーダー育成」であると考えます。「高い次元の文武両道」。「文」と「武」を通して、それぞれの分野で大志を抱き、そこに懸命に挑戦していく経験が必ず大きな財産になると確信しています。

当然、上記のことを成すための練習や求めることはハードです。

安易な考え方では当然続きません。そこに「覚悟」と「情熱」のある本気の人間を待っています。

●チーム理念

「未到への挑戦」

この言葉は、60 期・61 期代の部員たちが指導理念に基づき、創り上げたチーム理念です。

「自己を高め、未だ到ったことのない世界に行きたい」というのは人間が本能的に持っている成長欲求です。「その世界に行こうとするプロセス自体にも価値(成長)がある」―**当然、高い目標(未到)を掲げると、現実とのギャップに苛まれます。その苦しさと向き合い、逞しく成長していくプロセスに価値がある**と信じています。

●目標

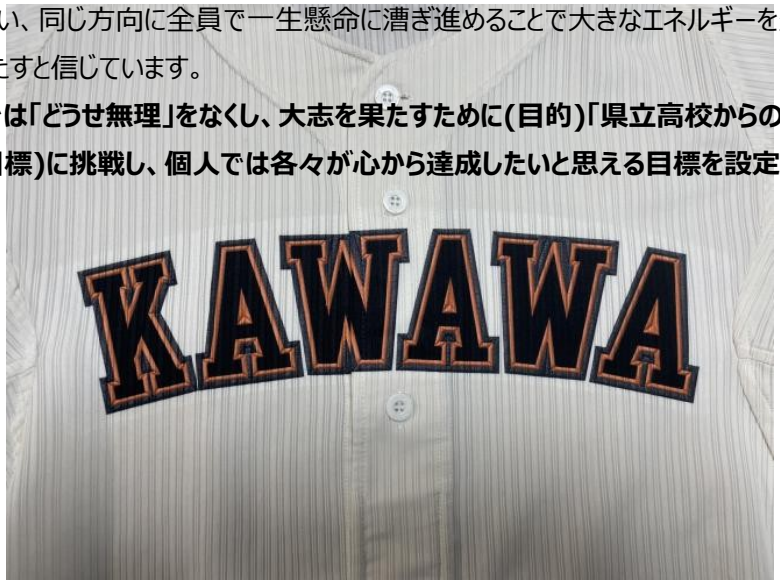
チーム：県立高校からの甲子園出場と勝利

個人：各々が達成したいと心から思えるもの

川和高校野球部では、チームで 1 つの結果目標を掲げるだけでなく、各部員が「自分のエネルギーが込み上がり、心から挑戦したい目標」も設定しています。「それではチームが 1 つにならないのでは？」と思われがちですが、決してそんなことはありません。むしろ逆だと考えています。自分の心からの目標だからこそ、個人とチームに大きなエネルギーを生み出します。

ただし、目標設定には条件があります。それは「チーム理念に即している」ということです。チームは同じ方向(チーム理念)に進む「船」であり、部員はその船に乗った「乗組員(＝仲間)」です。それぞれが掲げた目標を尊重し合い、同じ方向に全員で一生懸命に漕ぎ進めることで大きなエネルギーを生み出し、それぞれの目的を果たすと信じています。

よってチームでは「どうせ無理」をなくし、大志を果たすために(目的)「県立高校からの甲子園出場と勝利」(目標)に挑戦し、個人では各々が心から達成したいと思える目標を設定します。



●部員



・部員数　60 名(カッコ内はマネージャー)

　3 年生 16 名(1 名)　2 年生 16 名(1 名)　1 年生 28 名

・出身中学等

横浜市、川崎市が中心ですが、近年では**相模原市、大和市、海老名市、座間市、茅ヶ崎市、横須賀市、藤沢市、秦野市　他全県広域にわたって**進学してきています。ただ、通学は人生において貴重な時間です。長時間かけて通学してくれるに値する指導を心がけますが、慎重に検討してください。本校には 2 時間以上かけて通学している部員もおります。見学に来ていただければ、そのような部員のタイムスケジュールや進学の決め手などもお話しする機会が取れるかと思いますので、ご相談ください。

・硬式・軟式クラブチーム出身者も多く在籍しています。

横浜青葉シニア、横浜都筑シニア、横浜緑シニア、横浜西シニア、横浜南シニア、横浜北シニア、
川崎中央シニア、川崎北シニア、横浜東金沢シニア、町田シニア、逗子シニア、横浜泉シニア
横浜都筑ボーイズ、横浜青葉ボーイズ、世田谷南ボーイズ、麻生ボーイズ、町田ボーイズ
横浜中ボーイズ、湘南クラブボーイズ、愛川ボーイズ、横浜アサヒ中央ボーイズ
横浜旭ヤングベースボールクラブ、相模原ベースボールクラブ、横浜ヤングオセアンベースボールクラブ
都築ジャイアンツポニー、茅ヶ崎ブラックキャップス
横浜ジェイズ、サムライベースボールクラブ、六郷ペガサス、菅フェニックス、高津クラブドジャース　他

●スタッフ

監督・部長(代表顧問)　平野太一

大分県出身。昭和 60 年生まれ。高校時代の最高戦績は県ベスト８。
大学時代は中国地区大学野球連盟１部リーグで首位打者(.471)、ベストナイン(三塁手)受賞。
津久井浜高校監督５年➡瀬谷高校監督７年➡横浜国立大学大学院を経て 2022 年度川和高校着任。津久井浜高校夏ベスト 16、瀬谷高校では東海大相模に 6-7 と肉薄なゲームを展開するも敗戦。「チームの勝利と部員個々の成長」のために日々試行錯誤が続く。「県立高校から甲子園出場、そして勝利」のロマンを追いかけ、部員の成長とともに自身も自問自答しながら指導者として歩み続ける。
川和高校に着任し、2022 年冬から監督、2025 年春ベスト８(夏の大会第 2 シード)を皮切りに、夏 2 年連続のシード権獲得、また 5 季連続でベスト 16 以上に進出している。
また 2025 年 NPB ドラフトでは教え子である濱岡蒼太が育成 4 位で指名を受けた。
教え子には現・仙台育英高校コーチの杜秀介や現・茨城日産硬式野球部の大下将太郎、埼玉西武ライオンズ濱岡蒼太らがおり、卒業後高いレベルの野球界でも活躍できる人財育成も心がけている。

顧問　●角田和久(地歴公民)、●小山田浩士(理科)、●林拓郎(地歴公民)、江田俊二(英語)
●野球専門で指導可能な顧問が 4 名配属されております。
※県立高校ゆえ、顧問については年度ごとに人事異動が伴いますので、ご理解ください。

総合コーチ　齋藤虎太朗
投手コーチ　矢島崇(立教大学-三菱重工)
外野手コーチ　小池健太
捕手コーチ　千野航
組織メンタルコーチ　青地潔(日産車体元社長)
ストレングストレーナー　松岡哲朗
総合トレーナー　岩松知毅
管理栄養士　中村さやか(スポーツ栄養士)
理学療法士　田嶋大樹(横浜総合病院)
ほか

プロ野球選手を輩出または指導をしている優秀なトレーナーをはじめ、超一流社会人野球チームでのプレーまたコーチ経験のある投手コーチ、甲子園出場校でコーチ経験のある総合コーチ、卓越した指導力を持つ外野手専門コーチ、捕手専門コーチ、教え子にオリンピック金メダリストやプロ野球選手を多く抱えるメンタルコーチ。さらには首都リーグの強豪大学での指導も兼ねている理学療法士や管理栄養士・スポーツ栄養士の資格を持った栄養サポートスタッフ、さらにプロや世界レベルで活躍する方々(ビジョントレーニング、打撃・ピッチング等々)からスポット的にお世話になれる環境が整っています。

県立高校でここまで多くのスタッフに恵まれた環境は随一と自負しています。

●環境、設備

「県立高校随一の環境と設備」だと自負しております

公式戦会場にもなる立派なグラウンド(右翼 95m／センター120m)です。



バッティングゲージは４連あり(2025.6 に新規改築)、同時に４打者の打撃練習が可能で **LED 照明も完備**しています。また、**最新鋭のバッティングマシンが複数台**設備されています。

例①　吉田製アームマシン２台(左・右投手 ver.)：MLB も使用している質の高いボールが供給

例②　CPU 搭載の３輪マシン２台：球種や高さが CPU によりランダムに投射され、非常に実戦的





トレーニングルームだけでなく**ストレッチルーム**もあり、トレーニング用具も大変充実しています。





例①　各種デバイスを活用し、球質を可視化



例②　BLAST を使用し、打球の質を可視化



1・3 塁ベンチあり、ミーティングボードも充実



4 連バッティングケージ(LED 照明付き)



グラウンドにも LED 照明付き



歴代の顧問の先生方・OB 会・保護者会の方々のご尽力で**県立高校トップの環境**が整っています。

可能性を最大化できる環境だと自負しています。その環境を活かしてどう成長するかは自分次第です。

●練習試合

●甲子園優勝校や甲子園常連校、特徴あるチームとの練習試合を通して成長する経験を多く積むことができます。

練習試合対戦校例(県外チーム例)

(東京)関東第一(埼玉)花咲徳栄(千葉)中央学院、市立船橋

(茨城)明秀日立(宮城)仙台育英(福島)聖光学院(岩手)花巻東　ほか

●B 戦(場合によっては C 戦)の設定

AB(場合によっては C)に編成し、可能な限り多くの選手に成長の機会をつくっています。

●「川和の野球」

野球のゲーム性(「出塁」「進塁」をし、３アウトを取られるまでにホームを踏む、９イニングで相手よりも １ 点多くとっているほうが勝利する)を理解し、あらゆる戦術を駆使して攻撃を展開する、守備ではその逆(四死球少なく余計な出塁を減らし、進塁を防ぐ)を実践することを大原則としています。また、川和の野球の最大の特徴は「グラウンドレベルの選手が自らの判断を最優先してプレーする」ことと「相手との心理的な駆け引きを重視している」ことです。中学校時代に全国大会に出場しているような実績を持った新入生もまず「川和の考える野球」に戸惑います。ただ、理解し(わかる)、実践でき始めると(できる)、各選手の野球リテラシーが高まるので勝率も高まりますし、何より自立心・主体性・思考力が高まり教育的意義も高いと考えます。野球のゲーム性を理解し、心理的な駆け引きの中で、自ら判断・決断し、チームで勝利を勝ち取るのが「川和の野球」です。

同時に、61 期・濱岡蒼太が NPB ドラフトで指名されたことからもわかるように「個の能力の育成」も大切にします。チームの勝利に貢献するには、当然ながら個の能力も必須です。あくまでも「チームの勝利のため」であり、ワガママなプレーや雑なプレーは厳禁です。

「川和の野球は守備から」というチーム内キーワードがあるように、レギュラーの必須事項は「守備力」です。また、多く打席に立つためには出塁と進塁力(与進塁と奪進塁)、加えて長打力(最大の進塁打)を必要とします。

当然ながら、その年度ごとに在籍する選手に応じて最適解を検討しますが、おおよそ展開する野球の方向性も進路選択の基準として参考にしてください。






●練習内容の方針

「川和の野球」を体現するための練習３大要素

「フィジカル」「スキル」「実戦(パフォーマンスと心理戦)」

●「フィジカル」：本校はフィジカルを非常に重視/専門家による徹底指導

フィジカルトレーニングにおいては VBT(Velocity Based Training)を採用しており、野球に必要とされるパワーをトレーナー指導のもと、科学的に行っています。そこに必要な VBT デバイス(Vitruve 等)を多く取り揃え、トレーニングしています。さらに、近年プロ野球界でも注目されているワットバイク(日本サイクル社)を２台所有しており、瞬発的なトレーニングだけでなくリカバリー能力を向上させるトレーニングなども合理的に行うことができます。今後もさらに機具も充実させていく予定です。フィジカルを重視している分、トレーニングだけでなく食事・栄養摂取に対する取り組みも基準値(BMI25 以上・FFMI23 以上)を設けて徹底的に行います。近年、いわゆる「食の細い子」が増えていますが、ハードな練習を継続していくためにも、ハイパフォーマンス発揮のためにも**体重や筋肉量が必要なことは大前提**で指導します。

プロ野球選手になった卒業生や大学野球に挑戦している卒業生も「高校時代に本格的に体づくりをしておいて本当に良かった」と口を揃えて話すほど、高いレベルで野球をやる上ではフィジカル基準が一定値以上にあることは前提です。

あらゆるトレーニング項目やパフォーマンス項目に基準値を設け、アプリを使って「見える化」しています。

【基準値例】

BMI25 以上、FFMI23 以上、体脂肪率 15%以下
BLAST バットスピード 105km/h 以上、スイング時間 0.14s 以上、アッパースイング度 5-10°、パワー4.0kw 以上
30m スプリント 4.1s 以下、10m スプリント 1.8s 以下
ベンチプレス 100kg 以上、スクワット 160kg 以上、デッドリフト 185kg 以上
MD チョップスロー60km/h 以上　など







●「スキル」：多くのプロ野球選手や指導実績のある各領域の専門指導

スキルトレーニングにおいては、投手は三菱重工横浜でコーチ経験のある矢島崇氏、捕手は捕手専門プロコーチの千野航氏、外野手は小池健太氏が定期的に指導を頂ける環境です。内野手は内野手出身の平野・齋藤らが指導します。また、プロ野球選手やドラフト候補を多く指導している「もじゃさん」こと岩松知毅トレーナーから投手育成を中心に、打撃スキルも含め身体の操作性、トレーニング、科学的なアプリーチ等、多角的に指導を頂ける体制になっています。





●「実戦(パフォーマンスと心理戦)」：「川和の野球」を体現する最重要練習

いくらフィジカルを鍛え、スキルを磨いたとしても「上手くても発揮(パフォーマンス)できなければ意味がない」と考えます。そのためには試合、もしくは試合に近い舞台を多く経験することが重要です。つまり「上手い」より「強い(実戦の中でパフォーマンスが出せる)」を重視します。

また、勝負事で重要なのは、「自分のしたいこと」より「相手の嫌がること」です。そのためには「相手は何を考えているか」「相手から自分はどう見られているか」などを想像し、心理的な駆け引きを仕掛けていくことが重要です。自分のパフォーマンスを上げ、相手のパフォーマンスを上げることが肝要だと考えます。そのためのノウハウや心理的駆け引きを育成します。



●近年の成績

～ 2026 年度 ～

【第 108 回全国高等学校野球選手権神奈川大会】５季連続県ベスト 16

２回戦　15-1 横須賀総合(5 回コールド)　３回戦　7-6 武相　４回戦　4-3 横浜商大　５回戦　1-3 市ヶ尾

２年連続夏ベスト 16 かつ５季連続のベスト 16 以上進出

【春季大会】4 季連続県ベスト 16

地区予選 2 勝 1 敗(2 位通過)11-1　鶴見(5 回コールド)　11-12　港北　7-1　サレジオ学院

県大会 1 回戦　12-1　鶴見大附属(5 回コールド)　県大会 2 回戦　10-3　伊志田(8 回コールド)

県大会 3 回戦　3-1　武相 **4 季連続県ベスト 16 以上確定、2 年連続夏の大会シード権獲得**

県大会準々決勝　0-10　横浜創学館(7 回コールド)

春ベスト 16(夏の大会第 3 シード)、2 年連続夏の大会シード権獲得

～ 2025 年度 ～

【秋季大会】県ベスト 16 チームを跨いでの 3 季連続ベスト 16 以上

地区予選 3 勝 0 敗(全勝 1 位)7-1　横浜翠陵　8-0　白山(7 回コールド)　8-1　生田(7 回コールド)

県大会 2 回戦　5-0　港北　県大会 3 回戦　6-3　桐蔭学園　県大会 4 回戦　1-10　横浜(8 回コールド)

【第 107 回全国高等学校野球選手権神奈川大会】県ベスト 16(公立唯一)

２回戦　10-0　柏陽(6 回コールド)　３回戦　9-4　横浜緑ケ丘　４回戦　10-0　鶴見大付(6 回コールド)

５回戦　1-8　平塚学園(7 回コールド)

川和高校 18 年ぶりの夏ベスト 16(今大会、公立唯一のベスト 16)

【春季大会】春ベスト 8(夏の大会第 2 シード)

地区予選 3 勝 0 敗(1 位通過)

12-0　鶴見大付属(5 回コールド)　10-0　サレジオ学院(6 回コールド)　12-1　城郷(5 回コールド)

県大会 2 回戦　4-3　日大藤沢　県大会 3 回戦　2-0　藤沢翔陵

県大会 4 回戦　7-0　横浜清陵(7 回コールド)　**創部初春ベスト 8(夏の大会第 2 シード以上確定)**

県大会準々決勝　2-8　三浦学苑



●目的・目標(理念)の力

濱岡は小さい頃から疑わなかった。「自分は絶対にプロ野球選手になる」と。田奈中時代に川和の見学に訪れ、平野太一現監督と出会った日を忘れない。

「中学の時から高卒でプロに行くと決めていた。いろいろな高校から声をかけてもらったんですけど、平野先生に“全力で夢を応援する”って言ってもらえた。自分の次に夢を信じてくれる人が平野先生だと思った」

かくして、濱岡はプロ野球選手になるために川和にやってきた。「エースとして甲子園に連れて行くこと」が目標に加わった。中学時代の濱岡が出会いを忘れていないように、平野監督もはっきりとその日を覚えている。

「濱岡はバッとノートを広げて、そこには 30 個以上の質問が並んでいました。今、考えると佐々木朗希君(ドジャース)がメジャーに挑戦する時、複数球団に対し面談で質問をしましたが、それのミニチュア版みたいなもんでしょうか」

濱岡がした質問は「プロ野球選手になるための指導をしてもらえるか」という軸があった。中学時代の最速は 130 キロ前後で、制球力に難があり、けん制など走者との駆け引きを苦手としており、越えるべき壁は多かった。それでも高校では「155 キロを投げ、ドラ 1 で NPB に入る」と目標に掲げた。入学する直前の 22 年 12 月から指揮官に就任した平野監督との二人三脚の日々が始まった。

https://www.sponichi.co.jp/baseball/news/2025/02/18/articles/20250218s00001000039000c.html 一部抜粋

このあと、春の大会で川和高校創部初の県大会春ベスト８を果たし、第２シードを獲得。夏はベスト 16 で敗退するも、濱岡本人は埼玉西武ライオンズからドラフト育成４位指名を受け、プロ野球選手としての目標を果たした。そのDNAは後輩たちにも引き継がれ、秋は桐蔭学園、春には武相高校に勝利し、それぞれベスト 16 入りを果たす(4 季連続ベスト 16 以上)。何を意味しているかというと**「目的・目標の力は偉大である」**ということです。

大きな志を掲げ、仮説を立て、行動し続けることで目標が叶う可能性が上がる。そのエネルギー源は「目的(目標を達成したい理由)」です。自分の目的と目標をしっかり立て、達成するように行動していくルーティンを鍛えていきたいです。





●チーム川和

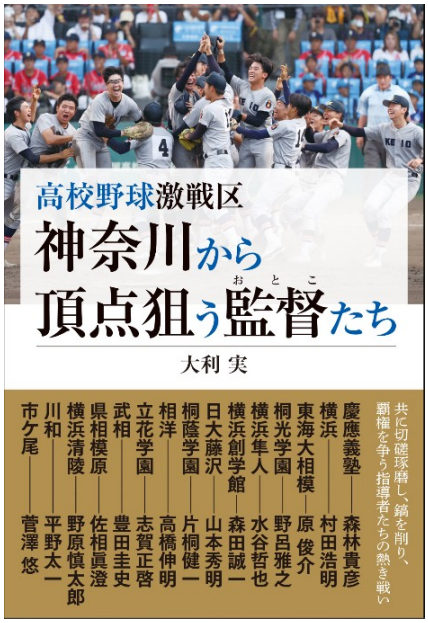


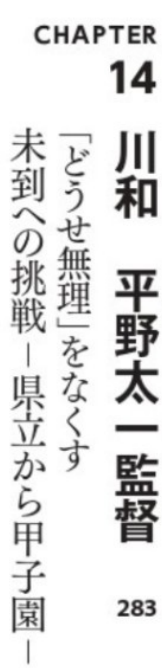


本校の理念に共感してくださる方々、本校に携わる全ての方々を総称して「チーム川和」と呼んでおり、また、これは「チーム方針」にも繋がってきます。**個の能力を上げること“だけ”に価値を持つ、また自分(自分のお子さん)の活躍“だけ”に価値を置く方の入部はご遠慮ください。**優秀な能力をチームのために尽力した部員がいます。自分が試合に出れずとも最後まで諦めず練習し、懸命にスタンドでチームの勝利に貢献した部員がいます。また、その裏にはチーム川和の理念を理解し、見守って頂いた保護者の方の存在があります。この文化こそ「チーム川和」の真髄です。
高校選び(チーム選び)は重要です。指導者やチームの方針に必ず共感し、進路決定することをお勧めします。

●メディア

本校監督の考え方をうまく表現してくださっています。









●進路実績例(野球部員)

●59 期：北海道大学、横浜国立大学、電気通信大学、東京都立大学
早稲田大学、東京理科大学、明治大学、青山学院大学、立教大学、駒澤大学、法政大学
●60 期：東北大学、千葉大学、横浜国立大学、東京農工大学、三重大学、東京都立大学
九州大学、大阪大学
青山学院大学、中央大学、國學院大学
●61 期：埼玉西武ライオンズ(NPB ドラフトにて指名)
筑波大学、千葉大学、九州大学
慶応義塾大学、明治大学、國學院大学、法政大学、武蔵野大学、東京薬科大学

●広報活動

・野球部公式 Instagram

@KAWAWABASEBALL

・野球部公式 X(旧 Twitter)

練習見学等いつでもお待ちしております。公式 Instagram や X の DM 等でご相談ください。

相応の「覚悟」と「情熱」があり、**「高い次元の文武両道」を本気で志す者**を待っています。